



大樹のこころ

切なくなる季節

3月に入り別れの季節となりました。この時期、学校はちょっとしたワクワク感と共に切なさに包まれます。この別れのシーズンの幕開けを告げるのが、卒業を祝う会です。本日その祝う会が、全校児童が集まって体育館で催されました。

会は6年生の入場からスタートしました。舞台の中央階段から1年生と手をつないで登場します。中には6年生が1年生を抱っこしている姿も。本校の特色である「異学年交流」の姿が見られ、とても温かな雰囲気になっていきました。入場が完了すると、各学年の出し物が始まります。

1年生の出し物はダンス「シャオイーシャオ」です。可愛いダンスの合間に、6年生へのありがとうのメッセージが挟まります。1年生は6年生との交流が多かっただけに、感謝の気持ちもより一層深いものとなっています。2年生は大ヒット曲「パプリカ」に合わせて踊りを披露します。

この踊りは6年生が2年生だった時に踊ったもの。6年生も一緒になって踊り、当時の思い出が蘇ってきます。3年生は「文字並べ替えクイズ」。バラバラの文字ボードが提示され、それを並び替えると曲名になります。

最初の出題は「ともに」という曲。この曲に合わせて3年生がダンスをします。次の問題の解答は「エーデルワイス」。これを今年から授業で始めたリコーダーで演奏していきます。4年生は、「明日への扉」の合唱です。

歌の間奏で6年生に向けた感謝の気持ちや大樹寺小をより良い学校にするという決意表明をしていきます。4年生の歌の最中に、自然発生的に手拍子が始まりました。会場の一体感がぐっと増していきました。5年生は、祝う会全体の司会進行を行います。しかし、ただ進めるだけではありません。学年の出し物の間に、楽しい寸劇を行っていきます。担任の先生やクラスの子供たちの特徴をよく捉えた演技に、爆笑が沸き起こります。

会の終盤で、在校生が「ありがとうの花」を全員で合唱しました。この歌声が本当に素晴らしい。体育館に響く歌声に感動で胸が震えました。

1～5年生までの出し物が終わると、最後に6年生が「カイト」の熱唱です。東京オリンピック公式応援ソング。6年生が歌い始めると、会場がピンと張りつめた空気になりました。在校生に向けて6年生が一生懸命歌う表情に、思わず涙腺が緩んできます。「もうすぐ6年生がいなくなってしまうのか」と切ない思いがこみ上げてきました。

3月は別れの季節。新しい世界への扉を開いていこうとする期待感と、このまま今の世界に浸っていたい寂寥感に学校は包まれています。

